



集落活性化委託事業 ～伊達市霊山町泉原地区～

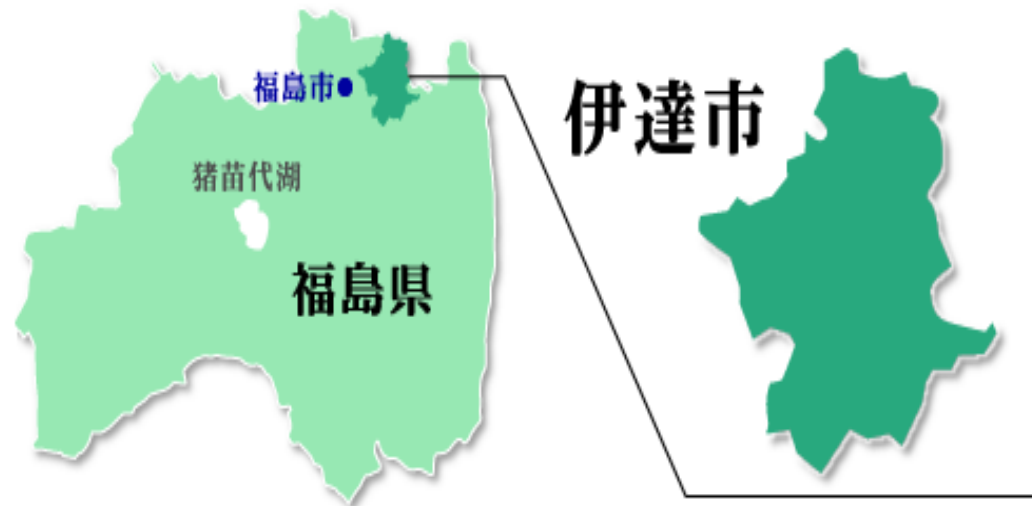


桜の聖母短期大学 がんばっぺサークル



泉原地区概要

泉原地区は福島県伊達市のほぼ中央に位置し、市の中心部である保原の東に位置する。西に広瀬川、そして片貝山、北東に地区のシンボル鹿頭山、東を阿武隈の山々に囲まれた福島盆地と阿武隈山系の境にあたる。地区中心部は海拔70～90mのところまに位置し、南東方向から北東方向に緩やかな平坦地で耕地に適している。

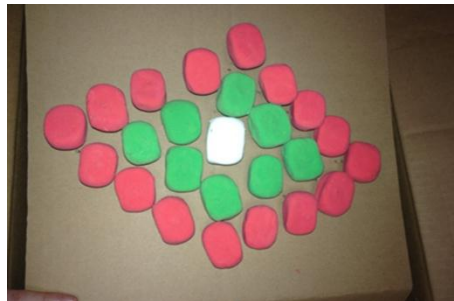


昨年度の提案

1. 十三講公式の餅柱
 - ①粘土を利用した餅柱づくり
 - ②塗り絵学校
2. 全体を巻き込んだ活動
 - 泉原の農産物を使って商品開発
 - 展示会や講演会の開催
 - 看板や張り紙

提案1 十三講会式

- ① 粘土を利用した餅柱づくり
→今年度は実施できず
→自治会の企画で今年度から一般の女性の方を対象に「餅飾り体験」を実施。
- ② 塗り絵学校
→今年度は実施できず



提案2

ノルディックウォーク

「学生を巻き込んだ活動」をサークルの活動の目的に掲げた。
→本学の募集ボランティア学生の活動の達成度を測るためボランティア対象に「アンケート調査」を今年度初めて実施。
⇒参加者が6人と少数であったが、アンケート結果からイベントに対する満足感や充実感が読み取れた



今年度は実施に及ばなかった
⇒既存のイベントの参加に精一杯であった
・・サークルが運営側に回るとの意識が希薄であった
・・事前準備への参加について日程調節が不十分であった
⇒自治会との連絡を密にし、サークルとして受身の姿勢でなく、もっと積極的に参加の機会を作っていくこと

・アンケート調査内容

(平成25年7月17日実施)

1.送迎バスを利用された方にお聞きします。集合場所は福島駅でしたが、短大も集合場所だと便利だと思いますか。

2.泉原地区の雰囲気はいかがでしたか？

3.泉原地区の住民の皆様とお話する機会や関わる機会がありましたか。

ノルディックウォーキングに参加してみていかがでしたか？

・アンケート調査結果

1への回答(集合場所についてなので割愛)

2への回答(活気があってよかった、自然があふれていてよかった、自然に囲まれていて心地よかった、空気がおいしかった)

3への回答(泉原の住民の方に話しかけてもらったことが嬉しかった、ウォーキング中や昼食は積極的にコミュニケーションをとることができた)

4への回答(豚汁がおいしかった、往復8キロの長距離は大変だったが、ゴールすると達成感を味わうことができた。その分ご飯も大変おいしく感じた)

提案 3.4 展示会や講演会の開催 看板や張り紙の充実

提案の実施結果

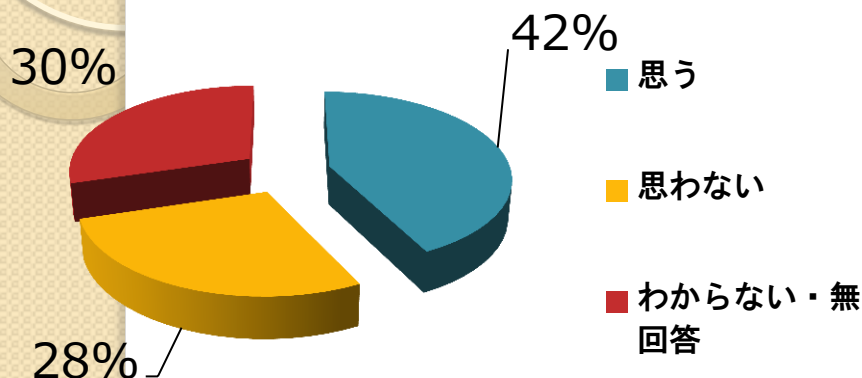
- **学校掲示板を利用した
ボランティア呼びかけ**
- **ノルディックウォークボランティア
参加学生へのアンケート実施**
- **泉原地区全戸対象アンケート調査**

今年度の活動内容

参加日程	内容
5月26日	ノルディックウォーキング大会
8月13日	いずんばらサマーフェスティバル
9月13日	泉原女性部の会 体操指導
9月23日	かぼちゃフェスタ
9月28日	訪問調査
9月29日	訪問調査
11月15日	十三講会式準備
11月16～17日	十三講会式
1月31日	午後：福島県知事表敬訪問
2月1日	活動報告会
2月11日	泉原地区報告会

泉原地区全戸対象アンケート結果

活性化していると思うか



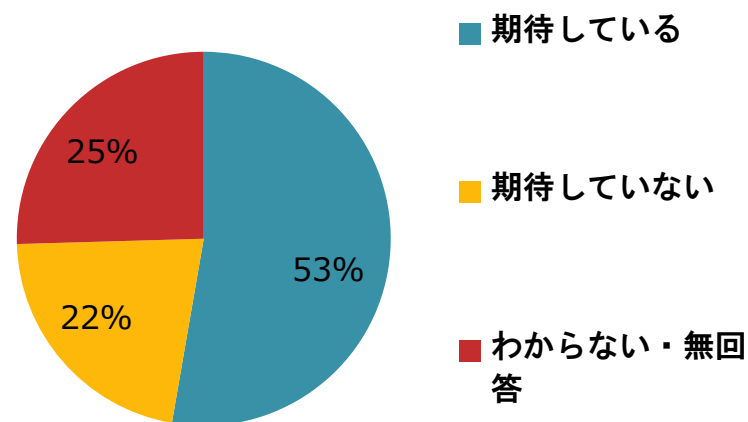
活性化した

- ・新聞に載ったりして泉原が広まってきた
- ・孫世代とのかかわりが楽しかった
- ・以前より住民の行事参加が多くなった
- ・若者が積極的に参加している姿勢が見られる
- ・学生の自由な考えがいい

活性化していない

- ・活動内容がわからない
- ・地域との交流に一貫性がない
- ・参加者がいつも同じ
- ・ある程度参加することにしぼりを設けるべき
(例.PTAなど)

サークルへの期待



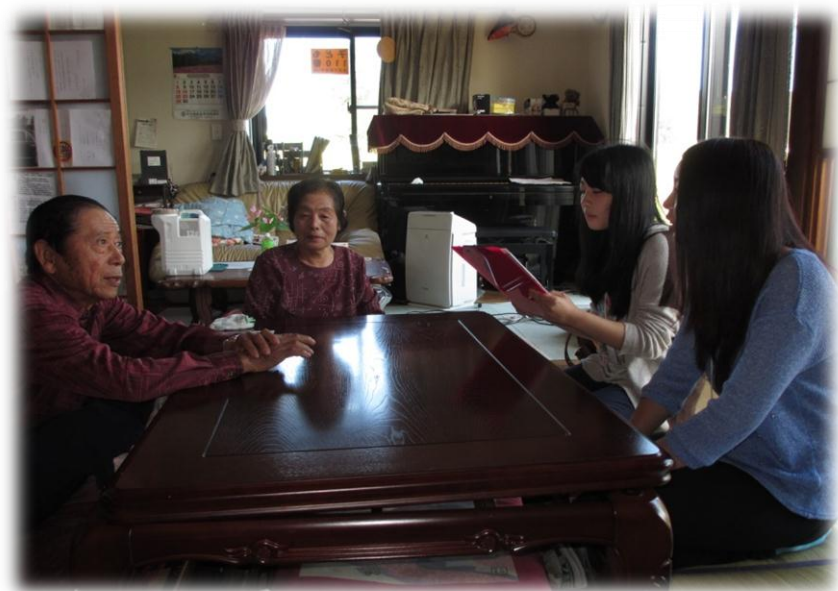
・若い力（新しい発想）を地域の中に注入してほしい。→**日常的な交流**

・農業面でも参加してもらい、農業の仕事の仕事を楽しくできると思ってもらえるといい。

(例).地域運動会、盆踊り、収穫祭、芋煮会→**継続的な活動**



民家訪問調査報告



民家訪問調査について

1. 訪問調査概要

3グループ（1グループ2～3人）に分かれて地区内の一般家庭5世帯ずつ、計15世帯を訪問した。50分の中で泉原の地域活性化についていくつかの質問をし、住民の方の生の声を聞いた。

1G 佐藤千華・宍戸美香

2G 今野あゆみ 齋藤菜摘

3G 国文郁美 渡辺七海 の3班

1グループ3世帯 1世帯聞き取り時間約50分

2. 質問内容

泉原地区は好きですか？どんなところが好き/嫌いか？
民家の方にとっては、若者に泉原地区に残ってほしいか？etc…

3. 訪問スケジュール

1日目	訪問先
佐藤・宍戸	菅野利一さん、橘内常雄さん、岡崎渉さん
今野・齋藤	菅野哲雄さん、阿部忠幸さん、佐藤節夫さん
渡辺・国文	橘内喜美男さん、野間正明さん、竹部雄一さん

2日目	訪問先
佐藤・渡辺	菅野孝太郎さん、佐藤廣一さん
今野・齋藤	岡崎米治さん、岡崎宇十郎さん
渡辺・国文	菅野義之さん、菅野弘明さん

聞き取り調査結果

新聞等に泉原地区が掲載されて活性化していると感じる、若者の柔軟な意見を取り入れたい



真の交流がされていると思えない、全員参加で初めて活性化する、活動の様子がわからない



訪問調査のように私たちが訪問することで家が明るくなった、日常的な交流がうれしい

まとめ

- イベントの参加だけでなく継続的に日常的な交流を図っていく必要性（ex.傾聴ボランティア）
 - 活動に一貫性を持たせる
- “学生の力”を活かしたイベントの企画や発想
 - 参加者、ボランティア「参加者」でなく、「運営側」に回ることに
- サークルの活動趣旨や計画を明らかにする
 - 住民の方に情報を発信していく
- 本学学生の参加者の確保
 - 学校を巻き込んだ活動